

# 宮崎県における小規模校の学校づくりに関する基礎的研究

竹内元<sup>\*</sup>・小林博典<sup>\*\*</sup>・藤本将人<sup>\*\*</sup>・吉村功太郎<sup>\*</sup>・遠藤宏美<sup>\*\*</sup>

## Fundamental Research on Creating Small-scale Schools in Miyazaki Prefecture

Gen TAKEUCHI, Hironori KOBAYASHI, Masato FUJIMOTO, Kotaro YOSHIMURA and Hiromi ENDO

### 1. 問題の所在

本学部では、文部科学省より2011～2013(平成23～25)年度の3年間に特別経費措置を受け、「小中一貫教育支援プログラムの開発と実践 - 小中一貫教育に関する総合的研究とそれを基盤とする新人教員養成及び現職教員研修」という事業を行った。研究プロジェクトの成果は、『小中一貫・連携教育の理念と実践 - 「美郷科カリキュラム」の実践』(宮崎大学小中一貫教育支援研究プロジェクト編・兒玉修編集代表、東洋館出版社、2013年)と『小中一貫・連携教育の実践的研究 - これからの義務教育の創造を求めて』(河原国男・中山迅・助川晃洋編著、東洋館出版社、2014年)にまとめ、公刊している。また、2016(平成28)年度に改組した本学部に「小中一貫教育コース」を設定した。小中一貫教育コースでは、小学校主免専攻と中学校主免専攻に分かれており、小学校と中学校の両方の教員免許状の取得を卒業要件としている。主免専攻の学校種における教育実習に加えて、異学校種の実習が1週間課されているほか、「小中一貫教育の理論と実践」(3年後期)が必修科目として設定された。さらに、2013(平成25)年度より、本学部が実施する教員免許状更新講習における選択科目に「小中一貫教育の理論と実践」を開講した。

宮崎県では、2006(平成18)年に全国初の施設一体型小中一貫校である日向市立平岩小中学校が設置された。日向市立平岩小中学校は、日向市小中一貫教育特区として開設され、開設当時の児童生徒数は230名、学級数は12学級、うち3学級が特別支援学級であった。各学年1学級で、1学級あたりの児童生徒数は21人から29人の学級規模である。宮崎県の小中一貫校は、ほぼ毎年のように新たな設置が続き、2019(令和元)年現在、宮崎県内には施設一体型小中一貫校が19校存在する。19校のうち、18学級(1学年2学級)以下の学校が、18校であり、そのうちの15校が9学級(1学年1学級)以下である。宮崎県における公立施設一体型の小中一貫校は、そのほとんどが単学級であり、小規模校であるといえる。<sup>1)</sup> (【表1】【表2】)

\* 宮崎大学大学院教育学研究科 \*\* 宮崎大学教育学部

【表 1】宮崎県における公立施設一体型小中一貫校一覧（2019（令和元）年度）

開校年度	名称 (設置自治体)	中学校	小学校	令和元年（2019年）度状況		
				児童・生徒数	学級数	備考
2006 (平成 18)	平岩小中学校 (日向市)	岩脇中学校	平岩小学校	206	9 (4)	
2008 (平成 20)	大王谷学園 (日向市)	大王谷中学校	大王谷小学校	958	30 (6)	
2009 (平成 21)	北郷学園 (日南市)	北郷中学校	北郷小学校 (黒荷田小学校を統合)	288	10 (4)	
2010 (平成 22)	笛水小中学校 (都城市)	笛水中学校	笛水小学校	9	9	準へき地 小規模特認校
2011 (平成 23)	東郷学園 (日向市)	東郷中学校 (坪谷中学校を統合)	東郷小学校 (福瀬小学校を統合)	146	9 (2)	
	鶴戸小中学校 (日南市)	鶴戸中学校	鶴戸小学校 (潮小学校を統合)	41	6 (1)	
	美郷南学園 (美郷町)	南郷中学校	南郷小学校 (神門小学校、鬼神野小学校、水清谷小学校、渡川小学校を統合)	99	9 (2)	へき地 2 級
2012 (平成 24)	西都銀上学園 (西都市)	銀鏡中学校	銀上小学校	23	5	へき地 3 級 山村留学受入校
	新田学園 (新富町)	新田中学校	新田小学校	354	12 (5)	
2013 (平成 25)	東郷小中学校 (日南市)	東郷中学校	東郷小学校	279	10 (3)	
	三納小中学校 (西都市)	三納中学校	三納小学校	147	9 (3)	
	三財小中学校 (西都市)	三財中学校	三財小学校	199	9 (5)	
	上江小中学校 (えびの市)	上江中学校	上江小学校	137	9 (3)	

2014 (平成 26)	北方学園 (延岡市)	北方学園中学校	北方学園小学校 (城小学校、三権小学校、美々地 小学校、北方小学校)	213	9 (2)	
	黒岩小中学校 (延岡市)	黒岩中学校	黒岩小学校	45	7	
2015 (平成 27)	上南方小中学校 (延岡市)	南方中学校	上南方小学校	175	9 (3)	
	三川内小中学校 (延岡市)	三川内中学校	三川内小学校	23	5 (1)	へき地 2 級 小規模特認校
	美郷北学園 (美郷町)	北郷中学校	北郷小学校 (黒木小学校を統合)	79	9 (2)	へき地 1 級
2018 (平成 30)	上新田学園 (新富町)	上新田中学校	上新田小学校	178	9 (3)	

\* 宮崎県教職員録をもとに作成、学級数の ( ) 内は、特別支援学級数を示す。

【表 2】 宮崎県における公立施設一体型小中一貫校の学校規模 (2019 (令和元) 年度)

	9 学級以下	10 学級以上 18 学級以下	19 学級以上	計
学校数	15	3	1	19
割合	79%	16%	5%	100%
	95%			

\* 【表 1】 より作成、割合は、小数点以下を四捨五入している。

宮崎県においては、現在、小学校教員の採用数が増加している。従来原則として、新規採用教員のへき地・小規模校への配置を避けてきた宮崎県でも、この原則を転換せざるを得ない状況が生じている。2019 (令和元) 年度と 2020 (令和 2) 年度には、新規に採用された小学校教員が各 1 名、へき地・小規模校に赴任している。また、大学卒業後、臨時的任用教員としてへき地・小規模校に勤務する可能性も高く、本学部には、へき地・小規模校での勤務を念頭に置いた新たな教員養成プログラムの検討が求められている。このような状況の中で、本学部は、小規模校の学校づくり・授業づくりに関する研究ユニットを構成し、小規模校のニーズに対応した学校を単位とした授業研究を推進するとともに、町内 4 小学校・1 中学校すべてがへき地・小規模校である五ヶ瀬町教育委員会と連携協力に関する協定を締結するとともに、村内 4 小学校・1 中学校すべてがへき地・小規模である椎葉村においても共同研究を推進することになっている。

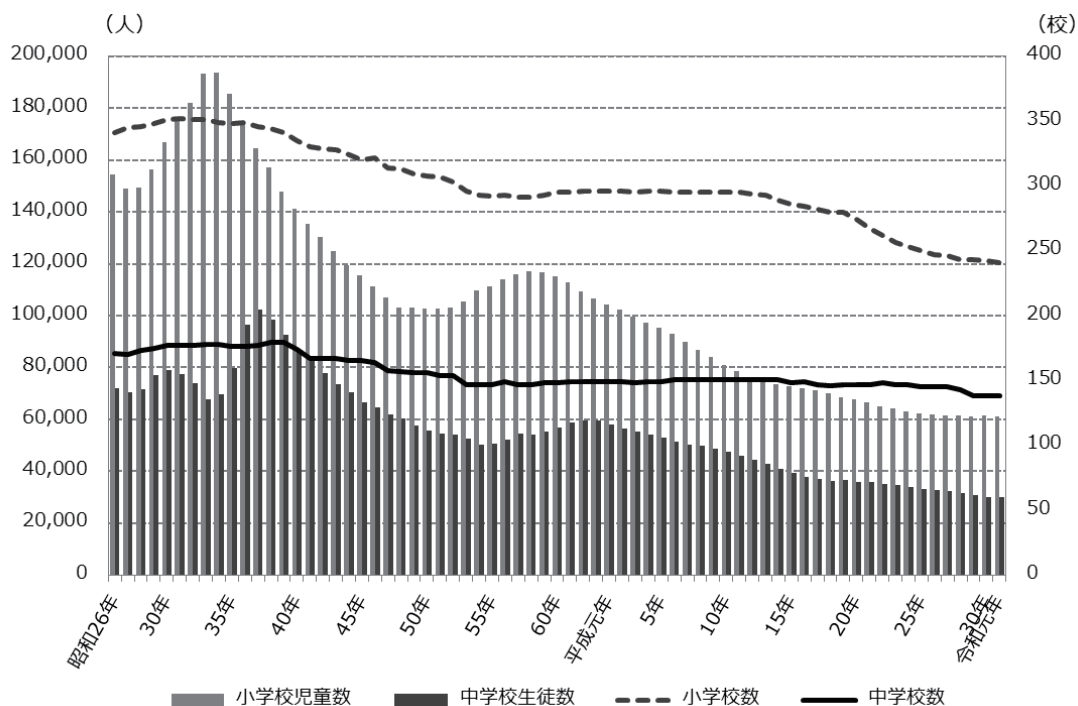
そこで、小規模校の学校づくり・授業づくりに関する研究ユニットでは次の 3 つの段階を経て、宮崎県における小規模校の学校づくり・授業づくりの実践課題を定立することにした。第一に、学校基本調査と宮崎県教職員録をもとに、宮崎県における学校の小規模校化の特質を明

らかにするとともに、小規模校の学校づくりの実践課題を検討する基礎資料を作成する。第二に、学校数・児童生徒数・学級数等を分析して明らかとなった宮崎県における小規模校の特質をもとに、対象地域の市町村教育委員会にヒアリング調査を行うことを通して、宮崎県における小規模校の学校づくりの実践課題を提起する。第三に、市町村教育委員会へのヒアリング調査をふまえて、対象校や対象校に勤務していた教職員に対するアンケート調査及びヒアリング調査を行うことを通して、小規模校の授業づくりに関する実践課題を提起する。本研究は、小規模校の学校づくり・授業づくりの実践課題を定立していく最初の基礎作業に位置づくものである。

## 2. 研究の方法と分析対象

宮崎県の人口は全国より早くに減少に転じ、かつ近年では減少の速度が増している。2015(平成27)年10月1日現在の宮崎県の総人口は1,104,069人で、2010(平成22)年と比較すると、31,164人(2.75%)の減少となっている。人口の推移をみると、1995(平成7)年にピーク(1,175,819人)を迎え、その後は減少が続いている。年少人口の割合や合計特殊出生率は全国有数の高さではあるが、出生数は減少傾向にある。<sup>2)</sup> 宮崎県では、児童数は1959(昭和34)年に、生徒数は1962(昭和37)年にピークを迎えた後、急激に減少し、昭和50年から60年にかけて増加に転じるものの、再び減少傾向を示している。学校数は小学校・中学校とも、昭和30年代をピークに減少し、昭和50年代半ばでいったん落ち着きを見せるが、平成10年代後半より減少が再開している。(【図1】参照)

【図1】 宮崎県の児童・生徒数および小・中学校数の推移



\* 学校基本調査各年度データより作成。学校数には分校を含む。中等教育学校は含めていない。

令和元年度学校基本調査によれば、小学校数は241校（分校を含む）、児童数は61,174人、中学校数は138校（分校を含む）、生徒数は29,905人となっている。過去20年間では、小学校数は82%、児童数は78%、中学校数は91%、生徒数は65%に減少、直近10年間では、小学校数は90%、児童数は92%、中学校数は94%、生徒数は83%に減少となっている。（【表3】）

【表3】宮崎県における小学校・中学校の児童生徒数及び学校数の推移

年度	小学校数	児童数	中学校数	生徒数
2019 (令和元)	241校	61,174人	138校	29,905人
2009 (平成21)	267校	66,575人	147校	35,888人
1999 (平成11)	295校	78,531人	151校	45,918人

\* 学校基本調査より作成、小中一貫校や私立学校、国立学校を含む数値である。

本研究では、宮崎県における学校数や児童生徒数がどのように減少しているか、さらなる傾向と実態を明らかにするため、児童生徒数の減少が再開している1999（平成11）年度以降の20年間に焦点を当て、学校基本調査だけではなく、宮崎県教職員録をもとにデータを作成し、宮崎県の公立小・中学校における小規模化の実態を分析する。<sup>3)</sup>

### 3. 結果 - 宮崎県における学校の小規模化の実態

#### (1) 宮崎県における学校数・児童生徒数・職員数の推移

宮崎県における学校数の推移は、以下の通りである。（【表4】参照）

【表4】宮崎県における学校数の推移

学校数		1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
		H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1/H31
小学校	本校	278	277	277	273	271	269	267	266	265	259	253	244	236	235	230	226	221	218	217	216	215
	国立	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	私立								1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	分校	10	10	10	8	9	9	8	7	7	7	7	5	5	4	2	2	2	2	2	2	2
	小計	289	288	288	282	281	279	276	275	274	268	262	251	243	241	234	230	225	222	221	220	219
中学校	本校	146	146	146	146	142	142	140	138	137	136	135	132	128	128	122	119	115	113	108	107	107
	国立	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	県立									1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	私立	4	4	4	4	5	6	6	6	7	8	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9
	小計	151	151	151	151	148	149	147	145	146	146	146	144	140	140	134	131	127	125	120	119	119
小中学校	一貫校								1	1	1	1	3	6	6	11	14	17(18)	17(18)	17(18)	18(19)	18(19)
高等学校	県立	43	43	43	43	43	44	44	44	42	43	44	42	39	39	38	38	38	38	38	39	39
	私立	14	14	14	14	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	14	14	14	14	14
中等教育学校	県立	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
特別支援学校	県立	14	14	14	14	13	13	14	14	14	15	15	15	15	13	13	13	13	13	13	13	13

\* 宮崎県教職員録より作成、一貫校の（ ）内は分校を含む数である。2009（平成21）年度より県立盲・聾・養護学校は県立特別支援学校となる。

宮崎県における児童生徒数の推移は、以下の通りである。（【表5】参照）

【表5】 宮崎県における児童生徒数の推移

児童生徒数		1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
		H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1/H31
小学校	本校	77,136	76,553	74,197	72,870	72,155	71,371	71,402	69,026	67,722	65,868	65,594	63,891	62,601	61,633	60,151	59,957	58,965	58,875	58,867	58,972	58,691
	国立	649	655	661	660	655	648	636	636	661	664	703	704	703	685	667	657	643	622	600	606	598
	私立								9	22	30	46	60	71	73	76	85	89	101	116	124	125
	分校	152	157	150	139	130	113	103	107	94	99	93	80	73	51	37	37	36	34	29	24	18
	小計	77,937	77,365	75,008	73,669	72,940	72,132	72,141	69,778	68,499	66,661	66,436	64,735	63,448	62,442	60,931	60,736	59,733	59,632	59,612	59,726	59,432
中学校	本校	44,465	42,803	41,244	39,365	37,655	37,353	35,308	34,441	34,432	33,622	33,352	32,359	31,696	30,792	29,793	29,337	28,817	27,335	27,265	26,472	26,302
	国立	508	508	505	502	505	508	500	501	497	488	490	492	489	488	489	488	490	488	487	488	494
	県立									80	159	235	277	319	359	349	318	360	359	360	360	360
	私立	945	1,005	1,029	999	1,010	1,105	1,220	1,389	1,533	1,676	1,727	1,714	1,701	1,774	1,761	1,817	1,826	1,851	1,524	1,707	1,898
	小計	45,918	44,316	42,778	40,866	39,170	38,966	37,028	34,441	36,542	35,945	35,804	34,842	34,205	33,413	32,392	31,960	31,493	30,033	29,636	29,027	29,054
小中学校	一貫校								230	243	239	249	588	978	941	1,579	2,389	2,694	2,600	2,560	2,713	2,642
高等学校	県立	32,827	32,397	32,544	31,152	29,498	28,712	27,210	27,101	26,140	25,286	23,946	24,989	24,534	24,430	23,699	24,903	22,937	22,592	23,478	23,005	22,472
	私立	14,775	13,497	12,782	12,537	11,514	11,514	10,960	10,869	10,486	10,316	10,223	10,017	10,338	10,354	10,334	9,911	10,063	9,388	9,748	9,656	9,242
中等教育学校	県立	236	476	236	237	232	229	226	232	231	230	226	227	233	231	230	231	233	230	233	229	288
特別支援学校	県立	961	986	1,003	978	1,005	1,021	1,076	1,111	1,076	1,188	1,188	1,219	1,232	1,261	1,276	1,312	1,363	1,367	1,385	1,367	1,394

\* 宮崎県教職員録より作成。2009（平成21）年度より県立盲・聾・養護学校は県立特別支援学校となる。

宮崎県における教職員数の推移は、以下の通りである。（【表6】参照）

【表6】宮崎県における教職員数の推移

	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1/H31
本校	4,404	4,359	4,280	4,184	4,245	4,244	4,246	4,087	4,200	4,112	4,076	4,036	3,938	3,878	3,790	4,001	3,643	3,703	3,573	3,589	3,668
国立	29	29	29	28	28	28	35	30	30	30	30	30	30	30	30	29	29	30	29	29	27
分校	32	35	34	30	29	27	25	25	24	21	23	17	16	12	6	6	6	6	6	7	6
小計	4,465	4,423	4,343	4,242	4,302	4,299	4,306	4,142	4,254	4,163	4,129	4,083	3,984	3,920	3,826	4,036	3,678	3,739	3,608	3,625	3,701
本校	2,882	2,820	2,788	2,753	2,704	2,693	2,653	2,507	2,581	2,554	2,551	2,514	2,462	2,430	2,348	2,261	2,216	2,136	2,160	2,149	2,146
国立	30	30	30	30	30	30	28	30	29	28	29	29	29	29	29	29	28	27	27	27	27
県立									11	11	13	21	26	25	52	33	27	27	27	27	27
小計	2,912	2,850	2,818	2,783	2,734	2,723	2,681	2,537	2,621	2,593	2,593	2,564	2,517	2,484	2,429	2,323	2,271	2,190	2,214	2,203	2,200
一貫校								24	24	24	24	64	128	123	201	290	333(7)	341(7)	338(6)	362(8)	352(8)
県立	2,702	2,669	2,641	2,584	2,498	2,434	2,291	2,331	2,260	2,216	2,179	2,152	2,091	2,065	2,046	2,032	2,031	2,022	2,012	2,016	1,995
県立	44	44	44	43	43	43	41	40	39	39	39	39	39	40	40	40	39	39	39	39	39
県立	828	809	791	761	777	781	793	799	795	805	814	834	843	831	828	824	840	855	873	888	897

\*宮崎県教職員録より作成、一貫校の（ ）内は分校を含む数である。2009（平成21）年度より県立盲・聾・養護学校は県立特別支援学校となる。

宮崎県の学校数・児童生徒数・教職員数は、公立の小学校・中学校とも減少傾向である。10年前の2009（平成21）年度と比較すると、2019（令和元）年度の学校数は、小学校（本校）数は85%に、中学校数は79%に減少している。児童生徒数に着目すると、小学校（本校）の児童数は89%、中学校の生徒数は78%に減っている。また、小学校（本校）の教職員数は90%、中学校の教職員数は84%に減っている。さらに、20年前の1999（平成11）年度と比較すると、小学校（本校）数は77%、中学校数は73%に減っている。小学校（本校）の児童数は76%、中学校の生徒数は59%に減っている。また、小学校（本校）の教職員数は83%、中学校の教職員数は74%に減っている。直近の10年間で小学校と中学校は66校減少しており、生徒数は13,953人減少している。小中一貫校は17校の増加であり、2,391人増加している。学校数の減少以上に、児童生徒数の減少の速度が増しており、全県的にみると、学校規模が小さくなる傾向にある。

宮崎県的小学校には、分校が設置されている学校もある。小学校の分校数の20年間の推移を【表7】に示した。10年前の2009（平成21）年度と比較すると、学校数は29%に、児童数は19%に、教職員数は26%に減少している。20年前の1999（平成11）年度と比較すると、学校数は20%、児童数は12%、教職員数は19%に減少している。



【表 7】 小学校（分校）の学校数・児童数・教職員数の推移

	学校数	児童数	教職員数
2019（平成 31）年	4	18	6
2009（平成 21）年	7	93	23
1999（平成 11）年	13	152	32

\*学校基本調査と宮崎県教職員録より作成、2019（令和元）年度の学校数には閉校中である日向市美々津小学校田の原分校も含まれている。

宮崎県では、分校を閉校してきたことがわかる。2020（令和 2）年度現在、開設されている小学校の分校は、西都市立都於郡小学校山田分校と都農町立都農東小学校内野々分校と日向市立東郷学園若竹分校（中学部も併設）である。西都市立都於郡小学校山田分校は、2019（令和元）年度で児童数が 2 年生 2 名、3 年生 1 名、4 年生 5 名、特別支援学級 2 名の 10 名であり、3 年生と 4 年生の複式学級の計 3 学級である。西都市立都於郡小学校山田分校の児童は、5 年生より本校である西都市立都於郡小学校に通学する。都農町立都農東小学校内野々分校は、2019（令和元）年度で児童数が 1 年生 3 名、2 年生 1 名、3 年生 4 名であり、1 年生と 2 年生を含め複式学級の計 2 学級である。都農町立都農東小学校内野々分校の児童は、5 年生より本校である都農町立都農東小学校に通学する。日向市立東郷学園若竹分校は、自閉症・情緒障がい特別支援学級のみが、小学部、中学部に設置されている。在籍している児童生徒は、宮崎県内の各地から居住を移して施設で生活し、校舎の 1, 2 階は、児童心理治療施設であるひむかひこばえ学園の生活空間として活用されている。若竹分校は、ひむかひこばえ学園との緊密な連携のもとに、総合環境療法の一部として機能している学校である。<sup>4)</sup>

宮崎県における学校統廃合は、ここ 10 年間には、4 校の小学校と 1 校の中学校を小中一貫校に統合した美郷町立美郷南学園（2011（平成 23）年開校）と延岡市立北方学園（2014（平成 26）年開校）に加え、6 校の中学校を 1 校に統合した串間市立串間中学校（2017（平成 29）年開校）など、大規模な統廃合も見られる。しかし、統合しても、なお小規模校であることに変わりないことも多い。直近 5 年間に統合がなされた 11 校の状況と学校規模を示すと、以下の表になる。（【表 8】【表 9】参照）

【表 8】 宮崎県における統廃合の状況＜2015（平成 27）年度から 2019（令和元）年度＞

開校年	閉校した学校	統合前児童 生徒数	統合先の学校	2019（令和元）年	
				児童生徒数	学級数
2019 （平成 31）	宮崎市立浦之名小学校	7	宮崎市立高岡小学校	419	14（3）
2018 （平成 30）	えびの市立加久藤小学校尾八重 野分校（2011 年より休校）	4	えびの市立加久藤小学校	232	11（2）
2017	串間市立福島中学校	269	串間市立串間中学校	407	13（6）



(平成 29)	串間市立北方中学校	52			
	串間市立大東中学校	71			
	串間市立本城中学校	18			
	串間市立市木中学校	10			
	串間市立都井中学校	9			
2016 (平成 28)	日南市立酒谷中学校	12	日南市立飫肥中学校	153	5 (2)
	串間市立市木小学校築島分校 (2010 年度より休校)	3	串間市立市木小学校	36	4
	串間市立大納小学校 (2010 年度より休校)	8	串間市立都井小学校	31	3
	日向市立幸脇小学校	16	日向市立美々津小学校	76	6 (1)
	五ヶ瀬町立鞍岡中学校	20	五ヶ瀬町立五ヶ瀬中学校	66	3 (1)
	五ヶ瀬町立三ヶ所中学校	84			
2015 (平成 27)	えびの市立大河平小学校 (2008 年度より休校)	1	えびの市立飯野小学校	384	16 (2)
	美郷町立北郷小学校	43	美郷町立美郷小学校	79	9 (2)
	美郷町立黒木小学校	11			
	高千穂町立岩戸中学校	51	高千穂町立高千穂中学校	252	9 (2)

\*宮崎県教職員録より作成、休校後に統合した学校は、休校前の児童生徒数を示している。統合後の学級数の( )内は、特別支援学級数を示す。

【表 9】2015~2019 年度に統合した宮崎県の学校の学校規模 (2019 (令和元) 年度)

	小学校 6 学級以下、中学校 3 学級以下の学校数	小学校 7 学級以上 12 学級未満、中学校 4 学級以上 6 学級未満の学校数	小学校 13 学級以上、中学校 7 学級以上の学校数
学校数	4	3	4
割合	36%	27%	36%
	64%		

\*【表 8】より作成、割合は、小数点以下を四捨五入している。なお、合計が 100%にならない場合がある。

宮崎県におけるへき地校数・複式学級を有する学校数の推移は、以下の通りである。  
(【表 10】参照)

【表 10】宮崎県におけるへき地校数・複式学級を有する学校数の推移

		2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
		H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31/R1
小学校	学校数	253	244	236	235	230	226	221	218	217	216	215
	へき地校	55	42	38	37	34	32	29	27	27	27	27
	複式学級を有する学校数	73	66	56	80	61	59	55	54	55	51	53
中学校	学校数	135	132	128	128	122	119	115	113	108	107	107
	へき地校	26	22	19	18	16	17	14	12	12	12	12
	複式学級を有する学校数	7	3	3	6	6	7	3	4	5	2	5
小中一貫校	学校数	1	3	6	6	11	14	17(18)	17(18)	17(18)	18(19)	18(19)
	へき地校	0	1	1	0	0	0	2	3	3	3	3
	複式学級を有する学校数	0	1	2	2	3	4	6	6	5	5	5

\*宮崎県教職員録から作成、小学校は、分校を含む。日向市立東郷学園若竹分校は除く。都城市立笛水小中学校は、2012年、2013年、2014年、2015年とへき地等級が宮崎県教職員録では記載されていない。西都市立西都銀上学園は、2013年、2014年、2015年とへき地等級が宮崎県教職員録では記載されていない。

まずは、小学校を見てみよう。2019（令和元）年度のへき地校数は27校であり、小学校全体に占めるへき地校の割合は13%となっている。2009（平成21）年度の55校より28校減っており、51%の減少である。2019（令和元）年度の複式学級を有する学校数は53校であり、小学校全体に占める複式学級を有する学校の割合は25%である。平成21（2009）年度の73校より20校減っており、10年間で27%減少した。小学校の場合、複式学級を有する学校数のほうがへき地校よりも多いことから、へき地以外の地域にも複式学級を有する学校が少なくなることがわかる。

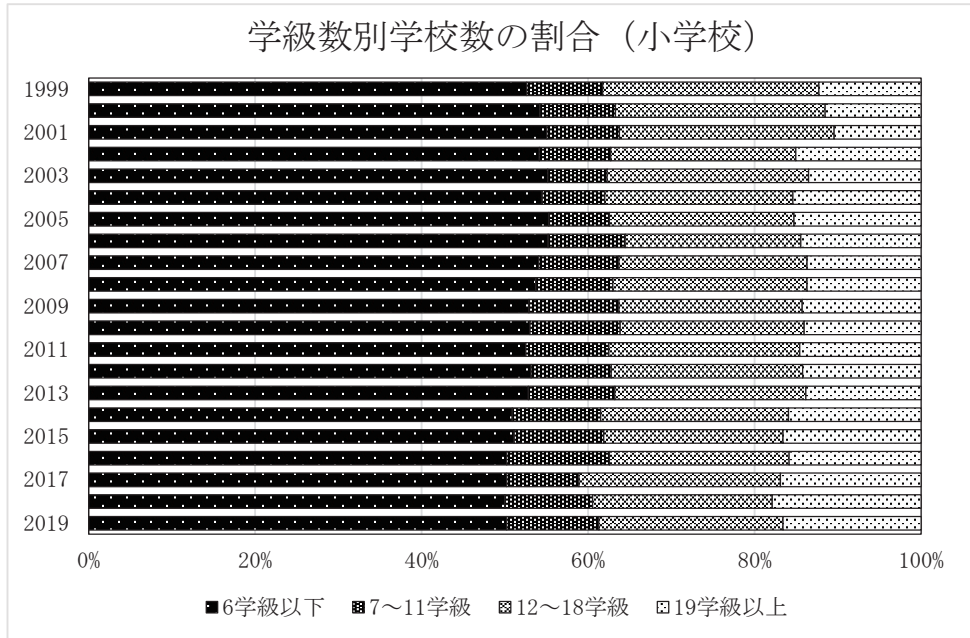
次に、中学校を見ると、2019（令和元）年度のへき地校数は12校であり、中学校全体に占めるへき地校の割合は11%である。2009（平成21）年度の26校より14校減っており、54%の減少となっている。2019（令和元）年度の複式学級を有する学校数は5校であり、中学校全体に占める複式学級を有する学校の割合は5%とわずかである。<sup>5)</sup>2009（平成21）年度の7校より2校減っており、29%の減少である。中学校は小学校よりも複式学級を編制する基準が厳しいこともあり、複式学級を有する学校数は極めて少ない。

小中一貫校を見ると、2019（令和元）年度のへき地校数は3校であり、小中一貫校全体に占めるへき地校の割合は17%である。2019（令和元）年度の複式学級を有する学校数は5校であり、小中一貫校全体に占める複式学級を有する学校の割合は28%である。

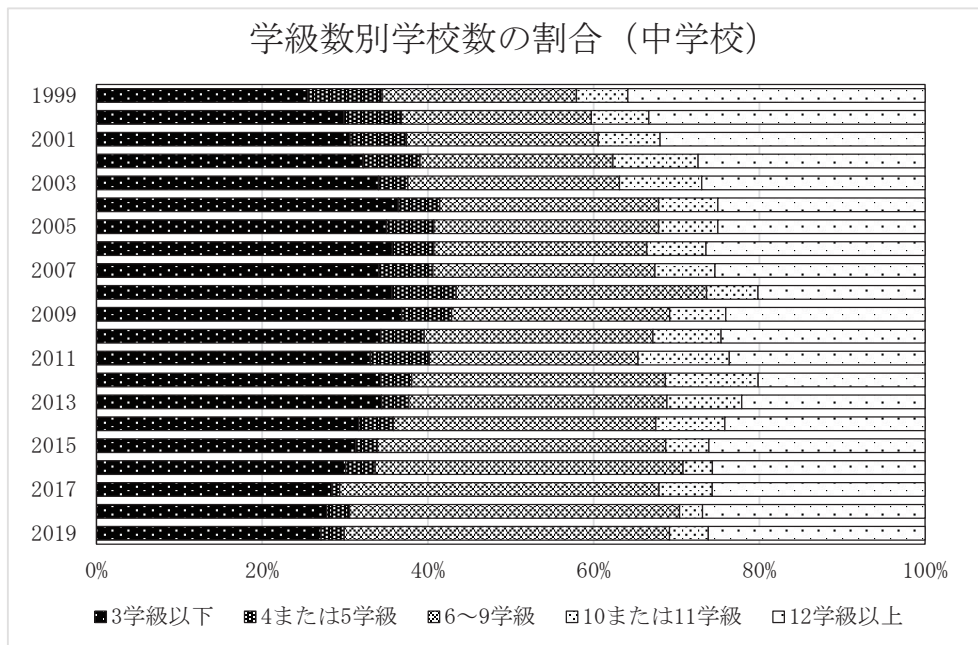
宮崎県では、小学校・中学校ともにへき地校数・複式学級を有する学校数ならびにそれらの割合は減少傾向にある。

## (2) 宮崎県における学級数を視点とした学校規模の推移

【図 2】 宮崎県における学級数を視点とした小学校の規模の推移



【図 3】 宮崎県における学級数を視点とした中学校の規模の推移



学級数別の学校数の割合がこの20年間でどのように変化してきたのかを、【図 2】（小学校）、【図 3】（中学校）に示した。

小学校は6学級以下（6学級＝1学年1学級）である割合が若干減少しているものの、約半

数を占めており、最も多い割合であることに変わりはない。さらに7～11学級を加えた、1学年2学級未満のいわゆる「小規模校」はおおむねどの年度でも6割を超えている。一方、「標準的な規模≒適正規模」とされる12～18学級の学校数は約2割で、やや減少傾向にある。

中学校は3学級以下(3学級=1学年1学級)が2000年代に増加した後、減少傾向がみられる。代わって増加しているのは6～9学級の学校である。これは1学年2～3学級の規模である。

宮崎県26市町村のうち、2019(令和元)年度に、各市町村内すべての学校が小学校で6学級以下、中学校で3学級以下の小規模校である市町村は、西米良村、諸塚村、椎葉村、日之影町、五ヶ瀬町の5町村であり、宮崎県内26市町村のうち19%を占める。そのうち、町村内のすべての学校がへき地指定を受けているのは、西米良村と諸塚村、椎葉村、五ヶ瀬町である。

市町村内の学校が、中学校1校、小学校1校の市町村は、綾町と西米良村、木城町である(【表11】参照)。市町村内の学校が、中学校1校、小学校が複数校ある市町村は、各市町村内の学校が小学校で6学級以下、中学校で3学級以下の小規模校である諸塚村、椎葉村、日之影町、五ヶ瀬町の4町村に加えて、串間市、三股町、都農町の3市町村である(【表12】参照)。市町村内の学校が、中学校2校、小学校が複数校ある市町村は、高原町、高鍋町、川南町、門川町である(【表13】参照)。

門川町の門川町立西門川中学校は、令和2年度より門川町立門川中学校に統合されており、門川町は、実質、中学校1校、小学校が複数校となる。中学校が1校のみの市町村は、門川町を含め全26市町村のうち11に及び、42%を占める。

【表11】市町村単位における学級数・児童生徒数(中学校1校小学校1校の市町村)

市町村	学校名	学級数	児童生徒数	備考
綾町	綾小学校	15 (3)	448 (15)	
	綾中学校	6 (2)	188 (7)	
西米良村	村所小学校	6 (1)	65 (2)	へき地1級
	西米良中学校	3	19	へき地1級
木城町	木城小学校	12 (2)	317 (9)	
	木城中学校	6 (2)	139 (6)	

\*宮崎県教職員録より作成、統合後の学級数の( )内は、特別支援学級数を示す。

【表 12】市町村単位における学級数・児童生徒数（中学校 1 校小学校複数校の市町村）

市町村	学校名	学級数	小計	児童生徒数	小計	備考
串間市	福島小学校	17 (3)	58 (10)	356 (16)	754 (30)	
	有明小学校	6 (1)		66 (1)		
	北方小学校	6 (2)		84 (3)		
	金谷小学校	4 (1)		33 (1)		
	秋山小学校	3		9		
	大東小学校	6 (1)		89 (4)		
	大平小学校	3		10		特地
	本城小学校	6 (2)		40 (5)		
	市木小学校	4		36		
	都井小学校	3		31		
	串間中学校	13 (6)	387 (20)			
三股町	三股小学校	18 (3)	72 (15)	506 (20)	1807 (77)	
	勝岡小学校	14 (3)		339 (15)		
	梶山小学校	6 (1)		65 (3)		
	宮村小学校	6 (2)		122 (5)		
	長田小学校	4		35		
	三股西小学校	24 (16)		740 (34)		
	三股中学校	22 (3)	799 (16)			
都農町	都農小学校	9 (3)	23 (8)	216 (12)	483 (77)	
	都農南小学校	6 (3)		190 (12)		
	都農東小学校	6 (2)		69 (4)		
	内野々分校	2		8		
	都農中学校	8 (1)	237 (8)			
諸塚村	諸塚小学校	4 (1)	3	41 (2)	64 (3)	へき地2級
	荒谷小学校	3		11		へき地2級
	七ツ山小学校	3 (1)		12 (1)		令和3年度に閉校予定
	諸塚中学校	3	36	へき地2級		
椎葉村	椎葉小学校	6 (1)	21 (2)	49 (1)	123 (2)	へき地2級
	尾向小学校	3		27		へき地3級
	不土野小学校	3		13		へき地3級
	小崎小学校	3		7		令和2年度から椎葉小学校に統合
	大河内小学校	3 (1)		10 (1)		へき地4級
	松尾小学校	3		7		へき地2級
	椎葉中学校	3 (1)	58 (1)	へき地2級		
日之影町	宮水小学校	6 (1)	17 (3)	70 (1)	160 (3)	
	八戸小学校	3		17		令和2年度から宮水小学校に統合
	高巢野小学校	5 (1)		42 (1)		準へき地
	日之影小学校	3 (1)		31 (1)		
	日之影中学校	3	89	へき地1級		
五ヶ瀬町	鞍岡小学校	4 (1)	17 (2)	36 (1)	156 (2)	へき地2級
	三ヶ所小学校	6 (1)		65 (1)		へき地1級
	坂本小学校	4		31		へき地1級
	上組小学校	3		24		へき地2級
	五ヶ瀬中学校	3 (1)	64 (2)	へき地1級		

【表 13】市町村単位における学級数・児童生徒数（中学校 2 校小学校複数校の市町村）

市町村	学校名	学級数	小計	児童生徒数	小計	備考
高原町	高原小学校	12 (2)	24 (3)	290 (12)	422 (13)	
	広原小学校	5 (1)		59 (1)		
	狭野小学校	4		40		
	後河内小学校	3		33		
	高原中学校	6 (2)	8 (3)	202 (3)	216 (4)	
	後河内中学校	2 (1)		14 (1)		
高鍋町	高鍋東小学校	21 (5)	36 (9)	621 (35)	1056 (61)	
	高鍋西小学校	15 (4)		435 (26)		
	高鍋東中学校	9 (4)	17 (6)	278 (21)	527 (25)	
	高鍋西中学校	8 (2)		249 (4)		
川南町	川南小学校	14 (4)	38 (12)	407 (23)	862 (42)	
	通山小学校	6 (2)		172 (7)		
	東小学校	6 (2)		121 (6)		
	多賀小学校	6 (2)		89 (4)		
	山本小学校	6 (2)		73 (2)		
	唐瀬原中学校	8 (3)	14 (5)	240 (11)	421 (19)	
	国光原中学校	6 (2)		181 (8)		
門川町	門川小学校	14 (4)	39 (9)	419 (14)	986 (32)	
	草川小学校	11 (2)		298 (5)		
	西門川小学校	3 (1)		13 (1)		令和2年度より閉校
	五十鈴小学校	11 (2)		256 (12)		
	門川中学校	13 (2)	15 (4)	440 (7)	464 (10)	
	西門川中学校	2 (2)		24 (3)		令和2年度より門川中学校に統合

#### 4. 考察

一つには、宮崎県における小中一貫校は、ほとんどが1学年1学級の小規模校という点である。1学年1学級であることがどのような学びを保障し、どのような学びの困難をもたらしているかに迫る必要がある。小中一貫校ごとの児童生徒数や学級の児童生徒数の違いをふまえながら、9年間を通して同じ集団で学ぶことがどのような意味を持つのかを検討するのである。とりわけ、美郷町は、2校がすでに小中一貫校になっていることに加え、田代小学校と西郷中学校を統合し、義務教育学校にする計画がある。<sup>6)</sup> 美郷町は、すべて1学年1学級の小規模校であり、9年間を見通した学校となる。（【表 14】参照）

【表 14】美郷町にある学校と学校規模（2019（令和元）年度）

学校名	学級数		児童生徒数
美郷町立田代小学校	6（1）	9（2）	69（3）
美郷町立西郷中学校	3（1）		32（1）
美郷町立美郷南学園	9（2）		99
美郷町立美郷北学園	9（2）		76（3）

\* 宮崎県教職員録より作成、統合後の学級数の（ ）内は、特別支援学級数を示す。

二つには、すべての小学校が6学級以下であり、中学校が1校かつ3学級以下である市町村は、中山間地域である諸塚村、椎葉村、日之影町、五ヶ瀬町である。そのさい、一つの小学校以外のすべての小学校が6学級以下であり、中学校が1校かつ6学級以上である串間市、都農町と比較して検討することができる。さらに、町村全体がへき地指定を受けており小規模校である西米良村と諸塚村、椎葉村、五ヶ瀬町では、交流学习をどのように位置づけているかを検討する必要がある。1小学校しかない西米良村と複数の学校を抱える諸塚村、椎葉村、五ヶ瀬町では違いがあるのか。隣接小学校までの距離に大きな違いのある五ヶ瀬町と諸塚村・椎葉村では、どのような違いがあるのか、集合型学習と遠隔授業をどのように位置づけているかなど検討するのである。なお、西米良村と同様に、1中学校と1小学校であり小規模校である地域に、宮崎県で唯一の島である延岡市の島野浦地区がある。延岡市立島野浦小学校と延岡市立島野浦中学校の学級数と児童生徒数の推移は、以下の通りである。（【表 15】参照）

【表 15】延岡市島野浦地区の学校の学級数と児童生徒数の推移

学校名	規模	2015	2016	2017	2018	2019
延岡市立島野浦小学校	学級数	3	3	4	3	3
	児童生徒数	29	22	22	18	19
延岡市立島野浦中学校	学級数	3	2	2	2	2
	児童生徒数	20	15	14	13	13

\* 宮崎県教職員録より作成。

三つには、宮崎県における複式学級を有する学校数は、減少傾向であるが、割合に変化がない。各学校が複式をどのように解消しているのかを明らかにする必要がある。特に、町村全体がへき地指定を受けている西米良村と諸塚村、椎葉村、五ヶ瀬町では教職員の配置の在り方や授業研究をどのように位置づけているかも含めて検討を加えたい。宮崎県では、学校数・児童生徒数・教職員数とも減少の一途をたどっており、統廃合を通して学校のあり様を変化させることで人口減少に対応してきたが、限界も見出せる。10校の小学校を抱えながら中学校を1校に統合した串間市は、中高連携を進めながらもどのような課題があるのか。通学等にはどのような課題があるのか。町村内1中学校の学校には、共通してどのような課題があるのか。地域と学校の関係を検討する必要がある。



## 5. 今後の課題

本研究では、宮崎県における学校数・児童生徒数の推移や学級規模を視点とした学校規模の推移をもとに、宮崎県の公立小・中学校における小規模化の実態を分析してきた。

人口減少社会では、すでに町村内に1小学校と1中学校しかない町村も増えてきており、これ以上統廃合が進められない学校では、今後も小規模化が進んでいくことが予想される。人口減少が進む自治体では、すでに全学年が単学級となっている学校も少なくなく、小規模化した学校の教育活動をいかに発展させるかが課題となっている。

今後は、宮崎県内の市町村の特性をふまえて、教育委員会等へのヒアリング調査をすすめるとともに、今回はとりあげることができなかった児童生徒数を視点とした学級規模や詳細に検討することができなかった教職員数の推移等も視野に、宮崎県における小規模校の学校づくりの実践課題に迫っていきたい。

## 6. 註

1) 日向市立大王谷学園は、宮崎県教職員録では、小学部と中等部が分離して記載され、2校扱いとなっている。また、高千穂町立上野小中学校を小中一貫校とする考え方もある。住所も同じ、施設も隣接し、校長や養護教諭は兼務、職員室は小中共有であり、学校行事も合同で行っていてもいるため、小中一貫校ととらえている教職員や保護者、地域住民も多い。実質上、小中一貫校といえなくもないが、宮崎県教職員録では別々に記載されており、2校扱いとなっている。

2) 2020年4月1日時点での人口推計によると、2019年10月1日時点では、宮崎県の年少人口の割合は、全国で4番目に高い13.3%である。

3) なお、宮崎県教職員録では、都城市立白雲小学校、都城市立白雲中学校、日向市立東郷学園若竹分校の学級数、児童生徒数は示されていないので、宮崎県教職員録から作成するデータには入っていない。宮崎県教育委員会による「学校一覧」によると、令和元年5月1日現在で、都城市立白雲小学校の児童数は、1学級1名であり、都城市立白雲中学校は、1学級4名である。

4) さらに、県立中学校は、2007（平成19）年度に開設した県立宮崎西高等学校附属中学校がある。開設当時の生徒数は、1年生の80名である。また、2010（平成22）年度より、県立都城泉ヶ丘高等学校附属中学校が、1年生40名で開設している。高等学校は、2010（平成22）年度に県立小林工業高等学校と県立小林商業高等学校は、県立小林秀峰高等学校に統廃合され、2011（平成23）年度に県立日南農林高等学校と県立日南振徳高等学校と県立日南工業高等学校が、県立日南振徳商業高等学校に統廃合されている。最近では、2020（令和2）年度に県立西都商業高等学校と県立妻高等学校が、県立妻高等学校に統合されている。中等教育学校は、県立五ヶ瀬中等教育学校一校のみである。1994（平成6）年に全国最初の公立中高一貫校として、県立五ヶ瀬中学校と県立五ヶ瀬高等学校が五ヶ瀬町に設立され、1999（平成11）年に学校教育法の一部改正に伴い、全国最初の中等教育学校、県立五ヶ瀬中等教育学校に校名を変更した。1学年40名の全寮制であり、1学年から3学年までを前期課程、4学年から6学年までを後期課程、高等学校に相当する後期課程は、全日制の普通科であり、6年間を見通した教育活動を展開している。2019（令和元）年度において、県立五ヶ瀬中等教育学校の生徒数は228名、うち前期課程の生徒数は118名である。

5) なお、2019（令和元）年度の宮崎県における複式学級を有する中学校は、都城市立西岳中学校（1学級、生徒数11人）、都城市立夏尾中学校（2学級、生徒数13人）、高原町立後河内中学校（3学級（うち1学級

は特別支援学級)、生徒数 15 人 (うち 1 人が特別支援学級)、延岡市立南浦中学校 (3 学級 (うち 1 学級は特別支援学級)、生徒数 10 人 (うち 2 人が特別支援学級))、延岡市立島野浦中学校 (2 学級、生徒数 13 人) である。

6) 町村内すべてが小中一貫校となる可能性がある町村に、新富町がある。2019 (令和元) 年度の新富町における学校と学校規模は、以下の通りである。学級数の ( ) 内は、特別支援学級数を示す。

学校名	学級数	児童生徒数
新富町立富田小学校	19 (4)	630
新富町立富田中学校	8 (2)	235
新富町立田園の里新田学園	12 (5)	354
新富町立学びの丘上新田学園	9 (3)	178